

- 3年生国公立出願状況
- キャリアガイダンス報告
- 共通テストチャレンジの見方

心の支えの一枚

司書 宅間由美子

司書室の私の机には、デスクマットに色々なメモが挟んであり、その中に一枚の新聞切り抜きがある。15年も前のもので紙も少し黄ばんでいるが、大切な一枚だ。『4TEEN』などの作品で知られる作家の石田衣良さんの一文で、タイトルは「子どもは自ら幹を太くする」。子ども読書の日に因み、自分が小学生の頃に図書館の児童室で読書の面白さに「はまってしまい」作家になろうと思ったこと、読書は無理強いせず子ども自身が好きなものを見つけていくべきであること、それには大人が楽しそうに本を読んでいたりと、周りに自然に本がある環境を作るべきであること、そうすれば「子どもは自分自身で自分の幹を太くしていくのです。成長する力は子ども自身の中にある」と述べられている。

仕事をする中で、一冊の本との出会いが一人の人生を変える瞬間に立ち会ったり、疑問を自ら調べ解決する楽しさに目覚めていく過程を目にする時がある。そうした素晴らしい瞬間こそが私の働く原動力だ。図書館は利用する人が自らの課題を解決する場所、そのために様々なことを整えておくのが司書の仕事と思っているので、この文を見つけた時は我が意を得たり、という気になったものである。

中でも私の支えになっているのは、石田さんが「読書は無理強いすることには賛成できません。ですが、図書館の充実を強く求めたい」としてアメリカの学校図書館の充実ぶりに驚き、高く評価している部分だ。学校の中心に位置し、どの教室からもすぐ行って調べものができる、資料費も豊富なアメリカの図書館…。特に私が感銘を受けマーカーを引いてある箇所はここだ。「この違い（宅間注：日本とアメリカの学校図書館の違い）はどこから来るのでしょうか。それは、『読書をしない人は貧しくなる』という現実にあります。インターネット社会では、言葉によるコミュニケーションが一層重要になります。言葉によるコミュニケーションの能力はそのまま情報化社会での生き残りにつながっていくのです。この現実を認識しているのがアメリカです。日本でも、学校図書館の充実とともに、言葉によるコミュニケーション能力を一層重視する必要があるでしょう。」

仕事もうまくいかない時、自分のやっていることの意味は何なんだろうと落ち込む時、自席に沈み込むと机の上のこの文章が目に入り、「いやいやまだできる」と私を励ましてくれる。すぐに成果が現れなくても、今やっていることが「子どもを豊かにし」「幹を太くする」手助けになるに違いない、図書館やっぱり大切だよ、明日は頑張ろう…そう自分に言い聞かせて少しずつ進んで来た気がする。

ところが。つい最近になって気づいた。「読書をしない人は貧しくなる」というのは、私は長い間「心が貧しい」「人間的に貧しい」という意味だと思ってきたが、実は文字通り経済的に「貧しい」という意味ではないか。15年前の世の中は、現在ほどのデジタル社会ではなく、日本では格差はここまで絶望的なものでないように見えていたから、気づかなかつたのだ。私の情けない読解力が、石田さんのメッセージの先見性に今になってやっと追いついたという訳である（反省）。

新宿高校の皆さん、読書をしましょう。紙の本でも電子書籍でも。読解力は重要です。

引用：石田衣良「子どもは自ら幹を太くする 人づくり国づくり 132」『日本教育新聞』2006.4.17

□ 共通テスト・国公立出願速報

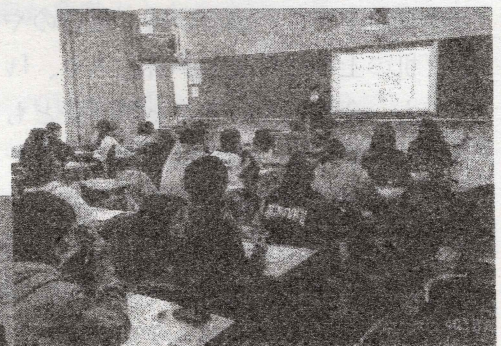
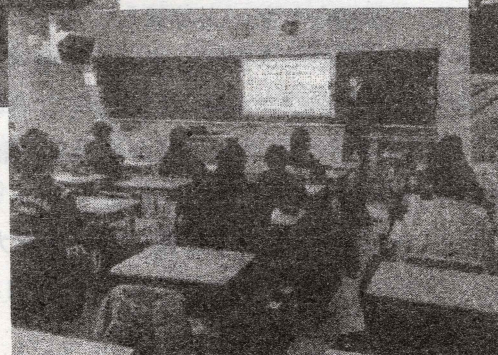
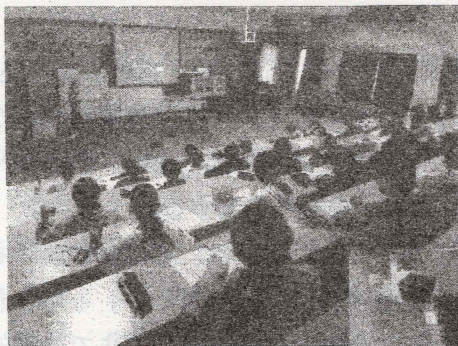
受験年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
	69回生	70回生	71回生	72回生	73回生	74回生
5教科7(8)科目受験者	171	179	190	192	205	185
国公立大学出願者(前期)	213	195	216	216	217	208
国公立大等合格者	95	79	89	91	105	★

大学入学共通テストの結果を受けて、2次の出願が終わりました。大学入学共通テストを5教科7(8)科目で受験した生徒数は、表のとおり185名となっています。また、国公立大出願者は昨年同様です。(国公立大は基本的には5教科7(8)科目ですが、中にはそれよりも少ない科目で受験できる大学もあります。)

3年生の健闘を祈っています。

○キャリアガイダンス(1年)

2月9日(水)に、1年生対象のキャリアガイダンスを実施しました。同窓会の全面的なご協力を得て、さまざまな分野で活躍されている諸先輩方をお招きしました。様々な分野の貴重な体験談を伺い、それぞれの将来の夢や進学へのイメージを確かなものとし、自分の人生について考えていくきっかけとなる行事です。



昨年度に続き今年度もコロナ禍ではありましたが、12名の諸先輩が対面、もしくはオンラインでお話しくださいました。ありがとうございました。あらゆる分野の第一線で活躍されている卒業生の「輪」も新宿高校の強みです。

講師をご紹介します。

国際機関	津川 清一 先生 (21回生)
新聞記者	小池 洋次 先生 (21回生)
ダイオウイカ	窪寺 恒己 先生 (22回生)
グローバル	佐野 良雄 先生 (24回生)
薬剤師	篠原 厚子 先生 (25回生)
公認会計士	中越 一統 先生 (31回生)
AI研究者	関根 聡 先生 (35回生)
弁護士	入澤 武久 先生 (36回生)
養護教諭	中西 智美 先生 (38回生)
建築	原田 将史 先生 (48回生)
広告	須田 健太郎 先生 (48回生)
サッカー審判	西村 雄一 先生 (43回生)

○共通テストチャレンジの見方

今年度は1年生、2年生とも全員共通テストチャレンジを受験しました。結果はそれぞれだったと思いますが、皆さんはまだまだ伸びます。全国平均点と比べて、冷静に自分の得点を受け止めましょう。

振り返りをする時には、現在の自分の知識で解ける問題なのか、なぜ解けなかったのかをしっかりと考えてください。1年生はまた来年受験します。そのとき、今回より何点伸ばせるかが重要です。来年取りたい点数を意識して、これから1年間を過ごしてください。

○2年生は3年0学期のスタート

受験学年としての3年0学期はすでにスタートしています。来年の共通テストまでもう1年ありません。焦る必要はありませんが、「受験はまだ先のことだ」と先送りする余裕もありません。

○ 目標を定める

目標を定め、その実現化のための計画を立て、それを日々実行することが大切です。予定通りに進まない時は立ち止まって計画を修正することも必要ですが、それでも構いません。目標実現のための「計画」と「実行」を始めてください。「計画」は「自分との約束」とも言えるでしょう。

○ 受験勉強は貴重な経験

受験勉強というと、何か暗くて辛いというイメージが付きまといますが、それは違います。皆さんも学ぶことの楽しさはこれまでに経験しているでしょう。分からないことが分かる喜び、問題が解けた時のスッキリ感！

大学受験のように勉強に没頭できる機会は、人生にそうはありません。楽しみながら、思いつき勉強して今後の人生につなげていきましょう。

○ バランスのとれた力を

ただ、受験勉強という特別な勉強があるわけではありません。受験では高等学校の授業で学ぶすべてのことが試されます。教科や科目という仕切りはありますが、例えば「現代文」や「英語の長文読解」の入試問題にはあらゆる教科・科目の内容が取り上げられています。

また、学力だけでは不十分です。まる2日間に亘る共通テストでは体力と集中力がないと話になりません。体育や部活動で鍛えた体力と精神力が役立ちます。

◆今後の予定

- 学年末考査 3/4 (木) ~ 8 (火)
- 実力テスト (共通テスト対策・学び未来PASS) 3/9 (水)・10 (木)
- 卒業式 3/15 (火)
- 修了式 3/25 (金)

「先輩からの言葉」は、新宿高等学校同窓会である「朝陽会」の方々のご協力、毎号卒業生からご寄稿をいただいています。

社会で活躍される皆さんの先輩方の貴重なメッセージです。

「良いこと探し」の毎日

65 回生 古谷 真

みなさん、こんにちは。新宿高校 65 回生の古谷真です。現在は、埼玉県で教員をやっています。社会人 5 年目の若造ですが、今回はせっかくの機会をいただいたので、少しだけお時間をいただけたらと思います。

突然ですが、皆さんは、高校生活を楽しく送っていますか？ ここ数年は感染症拡大防止の観点から学校行事なども満足にできていないことを考えると、思い描いた高校生活になっていないかもしれません。

ここで話を戻し、まずは僕の今までの進路を簡単に振り返りたいと思います。恥ずかしいことに、大学受験では、第一志望の大学には進学できず、滑り止めの大学に進学しました。そして、教員採用試験においても第一志望には合格できず、ご縁があった現在の学校で勤務しています。(高校受験でも新宿高校以外も気になっていました…)

このように、僕の進路を振り返ってみると、まあ思い通りの進路にいったことがありません。この人生を他人が見ると、失敗続きで残念な人生と思うかもしれません。しかし、不思議なことに、もしもう一度生まれ変わることができたとしても、僕は同じ人生を選択すると思います。(もしできるのなら、もう少しイケメンに生まれたいですが…(笑))

このように思えるのはなぜか。もちろん周囲の支えもありましたが、教員になるという目標に向かって、その時にできることに注力した結果、どのステージでもとても充実した経験ができていたからだと思います。

もちろん、大学入学直後には、この大学にくるはずじゃなかったのにと何度も思いました。その時期に腐ってしまう可能性があったかもしれません。しかし、そこでクヨクヨしていても何も始まりません。このように気持ちが沈んでいた時期から気持ちが上向いたきっかけは、大学を好きになったことです。その理由は、所属したサークルの活動(児童福祉ボランティア)がとてもやりがいがあったこと、周りの友人に恵まれたこと、昔から興味があった地理学を専門的に学べたことなど、大学に通うことが楽しくなったからでした。

話は元に戻りますが、皆さんは、新宿高校に通うことは楽しいですか？ 皆さんが思っている「楽しい」や「充実」しているという感情は、何事にも積極的に取り組む原動力となります。その行動が皆さんの成長に繋がっていきます。

最後に、皆さんの目標や夢はありますか？ もちろん、今は探している途中という人もいるでしょう。皆さん一人ひとりのこれからの進路は、夢や目標のために選択していくことになると思います。大学進学・就職がたとえ自分が思い描いていたものとは異なっても、自分自身が置かれた状況の中で最善を尽くし、できることを精一杯やることで未来を切り開いていくきっかけになることを私は実感しています。事実、私は今の勤務校で自分のやりたい地理を思う存分教えることができています。

自分の進む道がたとえ遠回りに思えても、必ず夢や目標に繋がっています。これから様々なことが待ち受けているかと思いますが、ポジティブ思考で、自分のいる状況の中で「良いこと(好きなこと)探し」をしてみてください。きっと良い方へ状況が変わっていきますよ。